



## 水難事故に気をつけよう 着衣泳の学習

暑い日が続く、子供たちは水泳の学習を楽しみにしています。プールでの子供たちの表情を見ると、水に親しんで笑顔いっぱいとなったり、自分の限界に挑戦して泳力を伸ばそうと真剣な顔で泳いだりと、自分の目標に向けて全力で取り組んでいます。その一方で、水泳は命に関わる学習なので、お互いに安全を確認し、気を引き締めて行わなければなりません。そこで、もしもの時に備えて、全学年で着衣泳の学習が行われました。

着衣泳とは、服を着た状態で浮いたり、移動したりする動作で、水難事故から自分の身を守る技術です。泳ぎの苦手な人が、数秒・数分泳ぎ続けることは非常に難しいですが、着衣泳の浮く技術を身につけることで、水面で呼吸することが可能となります。無理して泳ぐ必要もありません。1分1秒でも長く浮いて、救助を待ち、自分の生命を自分で助ける「助かる救助法」です。



水難事故に遭わないことが第一ですが、万が一のために備えておくことが大切です。夏休みに家族で水遊びをする機会があるかもしれません。楽しみの裏側に危険が潜んでいることを考え、互いの命を守り安全第一で過ごしましょう。

### 【水難事故にあった時に心がけるやるべきこと】

- ①パニックにならずに、落ち着くこと
- ②底の深さを把握すること
- ③浮いているものを、そっとつかまえること
- ④浮きながら待つこと



## 思いを形に 4年生造形教室

7月12日(水)に、4年生が造形教室に参加しました。

おかざき世界子ども美術博物館を訪れ、粘土で鬼の面を制作しました。自分の思い描いた形に仕上げようと、どの子も真剣な表情で粘土と向き合い、夢中になって作品作りに取り組みました。おかざきっ子展で個性豊かな創造性あふれる作品が展示されるのが、今から楽しみでなりません。



## 学区の安心・安全を学ぶ 1年生生活科

7月14日(金)に、1年生は学校周辺の通学路を歩き、自分たちの安全を守ってくれる施設や人について学びました。また、身近な公園で、ルールを守って楽しく遊びました。学区には「こども110番の家」がいくつかあります。自分の身を守るためにどうしたらよいか、どこに逃げたら安全か、おうちの人とも一緒に確認をしておきましょう。

